



お客さまの安全を守るために何をしているの？

ホームでの安全対策がひとつの答えです

JR東日本では、ハード・ソフト両面から鉄道システムの安全性向上に全社を挙げてチャレンジをしてきました。このなかでもホームにおけるお客さまの安全を守るため、「転落検知マット」「視覚障害者誘導用ブロック」「列車非常停止警報装置」「ホームステップ」などの設備を設置してきました。

さらに、これらのハード対策だけでなく1999年度からは「プラットホームキャンペーン」を実施し、ホームでのマナー乗車（駆け込み乗車の防止など）や、ホーム上で危険な状況を見つけた場合に「非常停止ボタン」を押していただくことなど、お客さまへのご協力を呼びかけています。

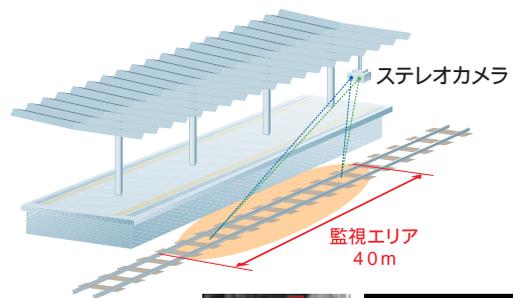
こうした施策により、鉄道交通事故のうち鉄道人身障害事故は1987年に124件だったものが2002年度には68件となり、会社発足当時と比較して半分近くまで減少しています。

p43

画像処理式転落検知システムの開発

ステレオ画像処理技術を用いて、ホームのほぼ全域でお客さまの転落を検知できる「画像処理式転落検知システム」の開発をすすめています。

このシステムでは、お客さまの転落を自動で識別し、駅と列車に転落者情報を伝達、お客さまの安全を確保します。これにより、転落検知マットが設置してある列車ドア下だけでなく、線路上のほぼ全ての場所をカバーできるようになります。



ステレオカメラを用いたデジタル画像処理により、転落者を自動で識別します

ホームでの安全対策

列車非常停止警報装置



ホーム柱などに設置してある「非常停止ボタン」を押すことにより、運転士に危険を知らせるものです。

視覚障害者誘導用ブロック



目の不自由なお客さまが、ホームから転落することを防止するために、ホーム縁端より内側に設置したものです。

プラットホームキャンペーンポスター



転落検知マット



お客さまが転落した場合に、ホーム下に敷設してあるマットが転落を検知し、運転士に危険を知らせます。

ホームステップ



お客さまが転落した場合にも、ホームに上りやすくするステップです。